

広報 ちゅうざん

8月号

2006.8.1 発行



ちゅうざん病院

〒904 - 2151

沖縄市松本6丁目2番地1号

電話: 982 - 1346

FAX: 982 - 1347

8月号 目次

回復期リハビリテーション病棟と音楽療法 (2頁)

「家族会準備委員会活動」 (3頁)

こまめに水分と塩分の補給を！！ (4頁)

PTの病棟配置について (5頁)

平成18年7月の入退院状況 (6頁)

回復期リハビリテーション病棟と音楽療法

ちゅうざん病院 理事長/院長 今村義典

新病院に移転し、早くも4ヶ月が経ちました。梅雨が明け、池武当側から病院の裏を通勤してくると朝から木漏れ日が硝子片のようにギラギラとまばゆく車に刺さってくるように感じます。今日も暑くなりそうだなと、眩しさもあって、つい顔をしかめてしまいます。

リハビリテーション病院には、歩行の自立に向けて積極的に頑張っている方、筋力を強くしたい方、日常生活動作の自立へ向けて焦っている方、ゴールが見えず鬱々とした気分にいる方等、様々な患者さんが入院されています。

そこで訓練プログラムも一様に出来ない難しさがあります。これまでのリハビリ訓練室中心の治療では、決められた時間毎に個人・個別治療の傾向が強く、患者さん同士が治療の情報交換をして頑張るには程遠い状態でありました。

しかし、今や情報化の時代と言われるように、身近に沢山の情報が溢れていますが、知識としての情報ではなく患者さん自身の治療に促した情報が治療を受ける上で大切であります。特に、家庭復帰・社会復帰に向けてピア・カウンセリングとしての患者さん同士の情報は大変参考になります。

当院では、病棟の訓練スペースが広く、リハビリ・スタッフの病棟配属も増えたことで、病棟訓練に積極的に力を入れていますので、常に複数の訓練プログラムが実施されています。見ているだけでも参考になることと思います。

特に、回復期リハビリ病棟に入院されて来られる患者さんは、発病から1, 2ヶ月以内の方でありますので、当然、殆どの患者さんが病気や障害のことを理解するには未だ時間が足りない鬱々とした状態だと考えられます。

遠藤周作の「心の航海図」という本の中に「病気であることは患者の肉体だけではなく心まで孤独にしている」という記述があります。医療者として心のケアも大切ですので、リハビリでは、臨床心理士も関わっています。

また、「笑うこと、笑えることは表情に余裕を与えると同時に、カチカチになりがちな心やストレスの溜まった肉体をゆるますことだ」と述べられています。

午後の一時、病棟の食堂で、三線や太鼓の音とともに賑やかなことがあります。覗いてみますと、楽しそうな表情と笑顔に溢れています。

病院によっては、音楽療法としてピアノ・コンサート等を行っているところも多いようですが、沖縄の音楽療法は三線が合うようで、回復期リハビリ病棟の患者さんにも是非参加し、「笑顔」を取り戻して欲しいものです。

「家族会準備委員会活動」

リハビリテーション部 高橋啓輔(理学療法士)

家族会をご存知ですか??

当院には、入院している患者さんや通所リハに通う利用者、またそれらの家族を対象に、さまざまな声を拾い日頃から抱えている疑問に答えていくことを目的に家族会準備委員会が立ち上げられています。当委員会の活動は月に1回「家族会」という名称で運営しています。皆さんが抱える疑問の解消を目的にテーマを毎回設定し、それに適した職員を講師に招き、講義・指導をしてもらうというものです。今年の7月1日には31名の参加者の方々が、ケアマネージャーによる介護保険の制度、申請方法などについてお話がありました。また7月29日には家族への介護指導・体験をテーマとし当院リハスタッフが講師となり、9名のご家族の方々に参加していただきました。講義を傾聴し、活発な質問をされるご家族の姿には、ご家族を想う気持ちがとても伝わりました。病院の職員としてさらに努力していく必要性を感じたものです。なお、当会で頂いた質問は、今後他の病棟スタッフへ申し送り、入院患者さんの入院生活ならび退院後の人生に少しでも反映できるよう努めてまいります。今後はさらにご家族の意見を取り入れられるようにするために、『ゆんたく会』なるものも考えております。より多くのご参加をお待ちしております。

私たちは、今後とも皆様に質の高い医療サービスを提供していきたい所存です。どうか、後気軽に「家族会」への参加をくださいますよう、私たちスタッフ一同お待ちしております。

本年度の勉強会へ参加できなかった方へ

勉強会の資料は両方ともお渡しできますので、希望される方は理学療法士 高橋まで気軽に声をかけて下さい。もしくは、病棟やリハのスタッフに伝言をしていただいても結構です。



「こまめに水分と塩分の補給を！！」

4A病棟 藤井 華代(看護師)

暑い最中にゴルフやジョギング、サッカーの激しい運動をすると、からだから大量の熱が発生し、体温が40度を超える異常高熱になります。その結果、脱水症状が進み、手足のけいれんや吐気、失神、ひどいときには意識障害を起こしショック症状で死に至ることがあります。これが熱中症です。アメリカでは40度を超える猛暑が続き、何百人もの死者が出ています。

人間の体は半分以上が水で占められています。水分は体の不要なものを排泄したり、体温を調節したり、酸素と栄養を運搬したり、と大変重要な役割をしていますが、体重の2%(体重60kgの人なら1.2リットル=コップ約7杯分)以上の水分が失われると、このような役割が果たせなくなり、上記のような症状が現れるのです。

急に気温が上がったり、梅雨明けしたばかりの時、湿度が高い時などが熱中症を起こしやすく、特に高血圧症の人や、心臓病持ちの人、高齢者の方などは要注意です。

熱中症の予防は、炎天下や蒸し暑い日の運動を避け、運動は軽めに、徐々にならしてから行う、また水分と適度な塩分をこまめに補給することが大切です。

のどの渇きを感じたときには、すでに体内の水分は減り始めています。気温の高いとき、運動などで汗を多くかいたときは早めに、ゆっくりと少しずつ水を飲みましょう(スポーツドリンクはおすすめ)。炎天下での着帽を忘れずに。

具合が悪くなったらすぐに運動を中止し、涼しいところで休憩します。意識がはっきりしない場合には、周りの人はすぐに救急車を呼びましょう。

特にお年寄りの方は、のどの渇きを感じる感覚が鈍くなっていますので、水分が減っても気付かず、脱水症状が起こりやすいのです。寝る前や起床後にコップ一杯の水を飲むようにしましょう。

この暑い夏を元気に健康に乗りきりましょう！！



PTの病棟配置について

当院ではリハスタッフも病棟専属となり、皆様によりよい医療サービスの提供をお届けいたしております。今年の4月から入職した理学療法士(以下PT)から、病棟配置について聞いてみました。

リハビリテーション部 金城英典(PT)

当院はリハスタッフを各病棟に配置させ、医師、看護師、ケアワーカー、医療ソーシャルワーカーなど、他職種と連携してチーム医療を行うことを試みています。この取り組みを行うことで、患者様が日常生活で困っていることや注意しなければならないことを他職種と話し合う機会が増えて私たちが提供出来るサービスをより良くし、患者様が能力を最大限に生かして日常生活を送ることが出来ると考えています。

具体的な取り組みとしては、リハスタッフが看護師・介護士の申し送りの中に入ってトレーニング時の動作を伝えることで、歩行やトイレ動作などを安全に、小さな介助で、患者様の能力を生かして行えるよう取り組んでいます。また、リハスタッフに早出する職員を配置させ、リハスタッフが介助や指導を必要とする患者様の動作(起床から更衣・トイレ動作・歯磨き・整容など)に関わって、患者様が生活のリズムを作りやすく出来るように取り組んでいます。

退院後・自宅復帰後に行われると考えられる生活様式に、院内生活の時からなるべく近づけて行い、患者様の生活能力を向上させたいと考え、理学療法士を含むリハスタッフの病棟配置に取り組んでいます。

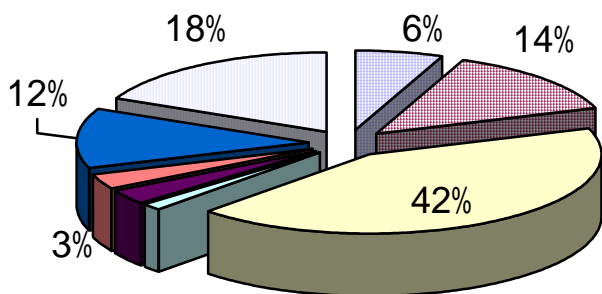
リハビリテーション部 知念優子(PT)

私はこの3月にリハビリテーションの専門学校を卒業し、4月から新入社員として、ちゅうざん病院に就職しました。ちゅうざん病院では看護師、介護士だけでなくリハビリテーション部のスタッフも各病棟に配置され、チーム内での連絡・情報交換が常に取れるような形をとっています。各病棟配置をとる事による利点として、朝夕の申し送りにリハスタッフも参加し、担当患者さんだけでなく病棟全体の患者さんの状態を把握する事が出来る。また、リハビリテーション自体もリハ室だけではなく病棟・病室内にて実施することも多い為、看護師や介護士も患者さんに対しどのようなリハを行っているのか知ることが出来、病棟でも能力に応じたADL動作を促していくことが出来る等良い点が沢山あります。しかし、新人である私にとっては現在配置されている病棟以外に目を向ける余裕がなく、他の病棟ではどのような方法でチーム医療を行っているのか把握できていない、また、病棟内での個々のトレーニングが多くなればなるほど、他のスタッフが行っているトレーニングを見ることにより学ぶ機会が少なくなるようにも感じています。

物事には常に利点と欠点が存在するものであり、欠点に対してはどのように対処していくかを考えていかないといけないと考えています。リハスタッフの各病棟配置に関しても同じであり、今後も業務を行っていく上で利点を有効に活かしながら、欠点についても常に対処法を考えていきたいと思えます。

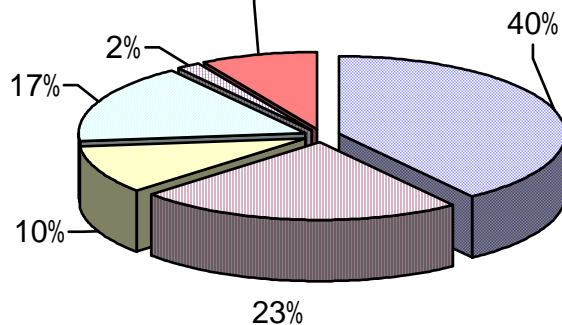
【平成18年5月 入退院状況】

【入院患者数：60名】



- 公立病院等(北部)
- 民間病院
- 施設
- 自宅
- 公立病院等(中部)
- 大学病院
- クリニック・医院
- ショートステイ

【退院者数：51名】



- 自宅
- 転院
- 施設入所
- ショートステイ
- 死亡
- 宅老所

～ 8月の予定～

8月20日(日) 院内研究会

場所：ちゅうざん病院 5F 会議室

8月10日(木) 「愛の献血」

場所：玄関前 14:00～15:00

広報 ちゅうざん (2006年 第8号) 発行：ちゅうざん病院 広報委員会

2006年8月1日発行(毎月1回1日発行)

編集委員：真喜屋 賢二